研修便り

高知市教育研究所教職員研修班
令和５年11月　日発行　No.168

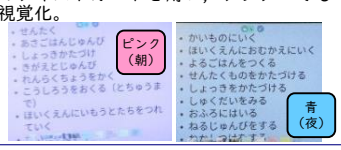
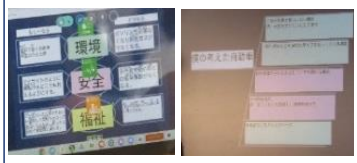
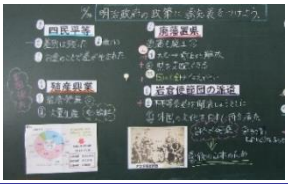
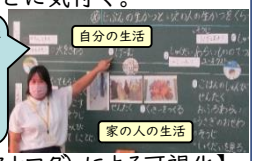
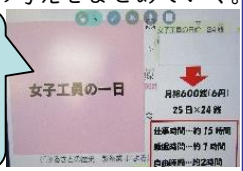
「研修便り」は，高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有，教育研究所から発信する情報の周知を目的として，発行していきます。

令和５年度　第２回情報教育担当者研修会　　令和５年10月24日（火）実施

対象：高知市立学校の情報教育担当者又は学校代表者１名（必須）

研修Ⅰ：【公開授業】～課題型持ち帰りによる個別最適な学びと協働的な学びを目指して～
授業者：昭和小学校　松下 友香 教諭（１年）・合田 真輝 教諭（５年）・岡崎 麻央 教諭（６年）

新たな課題が持ち帰り課題になる

	１年　生活科	５年　社会科	６年　社会科
単元名	じぶんで　できるよ	未来をつくり出す工場生産 ～自動車の生産にはげむ人々～	明治の新しい国づくり
本時の課題	自分の生活と家の人の生活を比べよう。	これからの社会では，どのような自動車が求められているのだろう。	明治政府の政策に通知表をつけよう。
持ち帰り課題 ・課題をつかむ ・予想する ↓ ・調べる ・追究する	生活の中の仕事を動画や写真で撮ったり，書いたりして提出。（文字入力は，家の人が入力する場合もあるが，児童も入力できるよう練習している）	（［本時の課題］を前時に示し）消費者のニーズに応える自動車の機能を思考ツール（各自で選択）にまとめ提出。	明治政府の七つの政策を点数化し，その理由をシート（通知表）にまとめ提出。
	・事前に，児童の考え等を授業者が短時間で把握できて，授業の流れを組み立てやすくなる。 ・タブレット端末で調べたものがあるから，授業での情報共有が活発になる。 ・ロイロノート・スクールでの提出は全体での共有が容易になる。		
情報共有 ・学び合う ・認め合う	提出した課題を基に話し合い，発表する。 自分と家の人の仕事に分けられた板書を見て，比較していく。 カードの色を変え，仕事内容を共有 朝（ピンク），昼（黄色），夜（青）のテキストカードを用い，デジタルでも視覚化。 	タブレット端末の使用は児童に任せ，提出した思考ツールを電子黒板に映して，自分の考えを発表する。 思考ツールを自分で選択 	グループで共有し，多角的に考えていく。点数を付けた理由には根拠（教科書や資料集，調べたこと）を示す。 他者の考えとの比較 
まとめ ・振り返り ・考えをまとめる **学び**	家の人の仕事の方が多く，自分が家の人に支えられて生活していることに気付く。 自分も家族の一員としてできることはないかを考えさせる。  【板書（アナログ）による可視化】	持続可能な社会の実現に向けたこれからの自動車産業に求められていることを考える。 SDGsのどの項目に当てはまるか，画面上で動かせるのはデジタルの良さ。 	現在の生活（勤労等）との比較をし，明治維新の政策について，自分の考えをまとめていく。 ロイロノート・スクールを用い，必要な情報を示し，現在と比較させる。 
新たな課題	次時につながる課題が児童から出てくる。		

【受講者の感想】
- GIGAタブレットを話合いのツールとしてうまく活用し，話合いをスムーズに進めることができていた。
- 反転学習的な学習スタイルで家庭学習との連携がなされていると感じた。授業の途中でも分からないことがあると，調べる姿や自作の資料を修正する姿は，学び方としてとても参考になった。

研修Ⅱ：【講評・講話】「VUCAの時代を生きる子供を育てる個別最適な学びと協働的な学び」
講師：つくば市立みどりの学園義務教育学校　教頭　中村　めぐみ　氏

「教えから学びへ」転換するICTの授業

【昭和小学校の授業について】
- ○　学校長のビジョンが明確で，次の段階に進んでいる。
- ○　低学年は教員がコントロールでき，高学年は自由に使えていた。
- ○　デジタル（動的）とアナログ（視覚化）のよさがあった。
  - →　デジタルを用いれば，項目を動かすことや，色を変えることも可能になり，より可視化できる。

『GIGA端末の活用はSAMRで考える』

Substitution（代替）
Augmentation（拡大）
} デジタライゼーション
↓
Modification（変形）
Redefinition（再定義）
} デジタルトランスフォーメーション

つくばシームレス教育
教師主体の端末の使用（文房具の置換）
↓　単元の中で持ち帰りを計画
自律探究型の学び　自由選択学習へ
『意味のある持ち帰りにする』

児童生徒一人一人が自分の考えた方法（アプリケーション）で，デジタルポートフォリオをつくりあげ，それを再定義し，クラウドで共有する。

- 生成AIの使用
- 探究に向かう仕掛けや課題解決に向けての仕掛けが大切。

【受講者の感想】
- タブレットの活用がどんどん進歩していて，実践例もたくさんあり，活用方法がいろいろあることが分かった。児童の思考が深まるようにジャムボードなど，工夫して活用したいと思った。
- 現在，文房具として日常でタブレット端末を活用している状態であるが，そこからさらにタブレットを活用して対話したり探究したりする状態へ移行していく必要があると分かった。

令和5年度　7年経験者研修

令和５年11月13日（月）実施

【研修】　「子供と教員のウェルビーイングを高めるリーダーシップ実践」
講師：愛媛大学教職大学院　露口　健司　教授

『ウェルビーイング』とは

身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい，生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念のこと

ウェルビーイングは次期教育振興基本計画における方向性にも示されており，教育を通じて向上させていくことが求められている。

獲得的ウェルビーイング
・自己肯定感
・自己実現　など

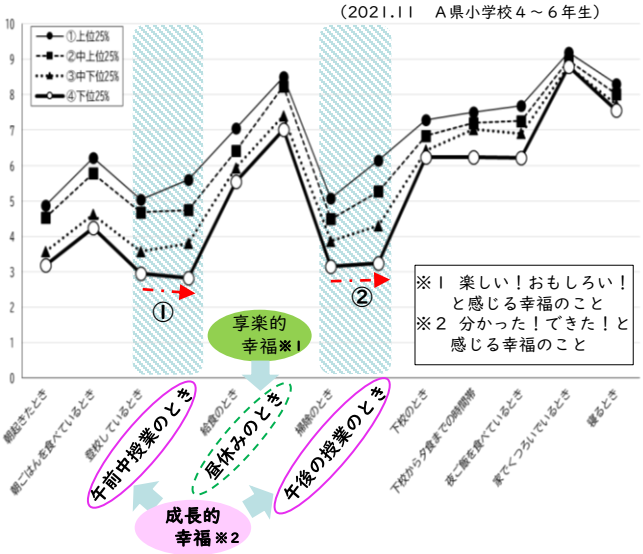
両者のバランスが重要

協調的ウェルビーイング
・利他性
・人とのつながり
・社会貢献意識　など

子どものウェルビーイング

子どもの１日を「見える化」することで
子どもの幸福度を知る

学習意欲・算数×１日の幸福度の変化
（2021.11　A県小学校４～６年生）



☆ **学習に苦戦している子ども（下位25%）を見ると，**

① 登校の時よりも授業の時に幸福感が下がっている。

② 掃除になると幸福度が下がり，そのまま午後の授業を迎えている。

『成長的幸福』を感じるはずの「授業中」に幸福度が低くなっている。

だから　**授業改善**

『分かる』『できる』『やりたい』『楽しい』授業づくりを!!

さらに
・　声をかけるタイミングで幸福度UP
・　友達や教師との信頼関係の構築も幸福度UPのカギ

教員のウェルビーイング

教員の業務を「見える化」することで
業務改善につなげる

【演習】自分の業務内容を書き出し，「働きがい」「負担感」「手抜き」「焦り」の４領域に分けて整理・分析する。

Ａ先生の業務分析シート

「負担感」を感じている業務
・本務から遠い業務
・勤務時間終了後の業務
・やらされ感に溢れた業務
・信頼関係のない人との業務

「働きがい」を感じている業務
・学級経営
・授業（教材研究等）
・部活動
・校内研究　など

負担業務の改善のために

同僚同士で「負担感業務」の改善について
⇒　**話し合うこと**が必要
業務の中身の改善
⇒　**自分自身でつくりあげていく**

業務の価値に気付くと「働きがい」のある業務になる

【受講者の感想】
・　授業の時間が子どもが一番苦しい時間だということが分かり，授業改善を引き続き行う必要があると感じた。そのために，「分かる・できる授業づくり」を主眼に置き，授業準備をしっかりとすることや授業中の見取りから困っている児童を把握し，対応していくことを更に心がけていきたい。
・　「本当はもっとこんなことがしたいのに，時間に制限されてできない」状況は，やりがいが損なわれ，逆にストレスを感じると思っていた。現在，思うように仕事をさせていただいているこの状況は，私にとってありがたい環境である。そんな事をちょうど考えていたので，今回の研修でお聞きした「働きやすさ」と「働きがい」のお話は，納得する部分がたくさんあり，「『早く帰れる＝幸せ』ではないのでは？」という問いの答えをいただいたように感じている。しかし，考え方は人それぞれであるので，学校という組織として，一緒に働く先生方がウェルビーイングに向かっていくために，これから中堅教諭に向かっていく７年経験者として何ができるのか，何ができるようにならないといけないのか，そういった宿題もいただいたように思う。

ご意見・ご感想を高知市教育研究所　教職員研修班までお寄せください。